

苺の定植後の管理について (N01)

R5.9

アグリ技研 (株)

冬にかけてエルニーニョ現象続く傾向

1. 今後も暖秋・暖冬傾向の予報

本年は例年の花芽分化と比べ品種により 7~10 日前後の遅れとなっています。現地では、未分化や分化初期での定植もあり出蕾の不揃いや高温による 1 次腋果の遅れなど懸念されます。このために定植後は活着、発根促進を優先して地上部の樹勢を余り強くしない管理に水管理や追肥の調整に努めましょう。

2. 活着・発根促進対策について

「定植後 30 日前後で根の環境も決まります」

「定植後の灌水は、株元を中心に少量多回数を行いましょう」

①定植後の発根促進効果に灌水処理の場合 (灌水チューブ使用)

◎アミクエ 5~10 k/10a を 5 日置きに灌水処理

②活着と徒長抑制、1 次腋果の分化促進の処理

◎アミクエ 500 倍+PK ゴー2~3000 倍の葉面散布

◎アミクエ 500 倍+クドグリーン 500 倍の葉面散布

2. 第 1 次腋果房分化対策 (10 月中旬~)

①定植後芯葉 2.5 枚展開後~

◎P・K ゴー2000 倍で葉面散布 (3~5 日毎) に 3 回前後散布

②株冷、夜冷苗の徒長防止対策

◎P・K ゴー1500~2000 倍で葉面散布 (状況に応じた処理回数)

* 第 1 次腋果房の花芽分化促進のポイントは

① 被覆資材での日中下温と日長対策 (日中の温度を下げて分化促進)

②灌水量の調整 (少量)

③PK 肥料の調整 (N のコントロール)